

# 沖技術戦略の策定にあたって

伊野 昌義

## 沖技術戦略策定の背景

日本経済が依然回復の兆しを見せない中で、これまで長年にわたり情報通信分野において数々の製品を世に送り出してきた当社が引続き着実な発展を遂げて社会に貢献するため、今後の技術のあるべき姿を描いた「沖技術戦略」を策定致しました。今回透明性を高めるべくそれを社内外へ積極的に情報発信し、それに対する反応やご意見を伺ってフィードバックしたいと考えております。

## 沖電気の目指すe社会<sup>®\*1)</sup>

当社はすでに企業ビジョンとして、「ネットワークソリューションの沖電気」の基本思想を明らかにしています。つまり、「個」が中心の時代であり「個」が主役の時代に誰もが安心して心豊かな生活を送る社会をe社会<sup>®</sup>とし、そのe社会<sup>®</sup>の実現に貢献して、グローバルに認知される優良成長企業を目指しています。

e社会<sup>®</sup>では、その基盤となる情報通信ネットワークに対して下記の3つの性質を有することが要求されます。

- ①いつでもどこでも誰とでもアクセスできる「時間と空間の超越」
- ②欲しい情報を望む形で入手できる「サービス/コンテンツ等の充実」
- ③安全に確実に適正な価格で利用できる「ネットワークの質の充実」

当社はあくまでも利用者の立場に立ち、各カンパニーはもちろん沖グループ全体の力を結集してこれらを実現していきます。

## 沖技術戦略の策定方針

上記の企業ビジョンに基づき、図1に示すプロセスで技術戦略の策定を進めていきました。技術戦略というと、現状有する技術および将来に有する可能性のある技術をもとに策定するという、シーズ指向で検討することがありますが、ここではあくまでも市場に軸足を置き、市場ニーズから生まれた具体的な事業との関連性を重視する

\*1) e社会は沖電気工業(株)の登録商標です。

ニーズ指向に基づいた技術戦略の策定を目指しています。

まず急激に変化している社会/市場/技術の動向をしっかりと見据えた上で、個々のカンパニーの事業構造とその今後の推移、特に自社の強みを十分に把握して、さらなる優位性を確保することを狙います。そして、今後拡大していく事業および新たに創造していく事業に経営資源を集中するため、重点を置くべき技術分野を選定しました。

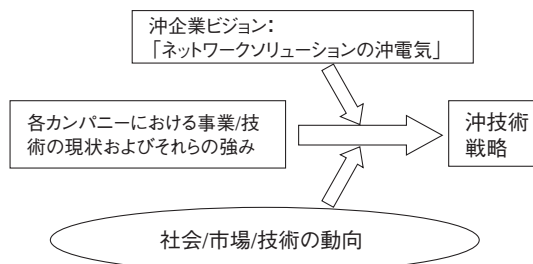


図1 技術戦略の策定プロセス

その際、カンパニー間にまたがる領域、特に情報通信融合分野を中心として新製品創出を目指し、そのため、いくつかの主要な技術分野で中長期的に取り組むべき課題を示しています。また、今後のビジネスがソフトウェア・サービスにシフトしていることに鑑みて、それらの関連技術にも言及しています。これらを踏まえ、本号では沖としての全体的な技術戦略を、次号以降では音技術・セキュリティ技術・ヒューマンインタフェース技術といった、いくつかの事業にまたがる分野での技術戦略を述べていきます。

## 定期的なレビューの実施

なお、社会/市場/技術の世の中動向は目まぐるしく変化しており、それに従い当社の事業も激動しております。そのため、常に事業との一体化を保持すべく、技術戦略は今後も定期的にレビューしていきます。◆◆

## ● 筆者紹介

伊野昌義: Masayoshi Ino.専務取締役・CTO